

特定非営利活動法人市民まちづくり会議・むさしの

令和3年（2021年）度第20回総会

令和3年6月12日（土）午前10時～12時分

場所：商工会館3F講座室※

資 料

（審議事項） 議案1 令和2年度事業報告および決算報告

事業報告書： 別紙1-1参照

収支計算書： 別紙1-2参照

監査報告： 別紙1-3参照

（提案事項） 提案1 令和3年度事業計画及び収支予算

事業計画： 別紙2-1参照

収支予算： 別紙2-2参照

（参考） 令和2年度会員名簿（令和3年3月31日時点）

※閉館の場合は事前に別途代替場所を連絡します。

別紙1－1 令和2年度事業報告書

§ 1. まちづくりに関する調査研究事業

1. 景観をテーマにしたまちづくり事業

事業内容1： 武蔵野市景観ガイドラインの検証及び市民向け手引き等のフォローアップ、及び景観に関する市民意識を高めるための啓蒙活動（南）

市内全体の景観向上に向けて、昨年度に引き続き現状の課題把握や啓発事業等を継続的に実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響から実施は断念した。

2. 古民家ウォッチングの継続と利活用方策の検討

事業内容2： 古民家からKOMINKAへ（山田）

新型コロナウイルス感染症の状況が改善するどころか悪化しており、古民家ウォッチングは実施できなかった。

3. 都市計画マスタープランの見直しに向けた対応

事業内容3： 武蔵野市都市計画マスタープランの見直しへの対応（役員、篠原）

都市計画マスタープランの策定は予定よりも遅れている。原案に対する意見募集は令和3年2月5日～3月5日に行われ、当会からは南副代表が意見書をまとめた他、村井副代表も意見書を提出した。令和3年夏ごろまでに第8回の改定委員会が開催され、9月以降から運用される見通しである。

4. 「外環の地上部街路に関する話し合いの会」への司会者の派遣等

事業内容4： 中間まとめの会に進行役を派遣し編集作業をサポートする（村井、西村）

1) 中間まとめの会（村井）

令和2年度新型コロナ（COVID19）の発生により、中間まとめの編集会議は中断された。また、10月18日の本線陥没事故（調布市）が起こり、東京都の動きは止まったままである。令和3年3月31日都の担当人見氏から人事発令の挨拶があり、三浦氏と交代となった。令和2年度、編集会議は一度も開かれなかったが、編集委員の古谷圭一氏が校正を進められ、他の編集委員との合意も得ていることから、編集会議再スタートの準備はできている。

2) 外環本線について（西村）

2020年10月、調布市の外環本線の上の部分で陥没事故があり、原因究明のためのボーリング調査の最中に付近の合計3か所の地下で、空洞が見つかった。第三者委員会での調査を要望しましたが聞き入れられず、大深度工事のための有識者委員会が調査検討した結果を4月に報告した。沈没したあたりは地盤がかなり緩くなっているので、約2年かけて地盤の修復工事をするということである。現在はすべての大深度工事は停止し、地中拡幅部などの付帯工事のみが続いている。

工事が再開されると、今後、三鷹市、武蔵野市と工事が進むことになるが、現状では同様の事故が繰り返されないという保障はなく、各区市と国やNEXCOとの話し合いが続く予定である。話し合いの前提となる情報公開がきちんとされないのが不安が増すばかりだが、今回は大手マスコミ、テレビ各局の報道が多く、市民にはありがたい。

なお、赤羽国土交通大臣と小池都知事は、外環道の「都市計画事業施工期間延伸」を求めた国とNEXCO二社の事業計画変更申請を承認・認可した。従って、外環道の事業計画は2031年3月31日まで10年延びることとなった。

5. 三鷹駅北口地区まちづくり協議会・準備会への支援

事業内容5： 「三鷹駅北口街づくりビジョン」について（高田、塩澤）

（昨年度事業計画）

「三鷹駅北口地区補助幹線道路の整備により、三鷹駅北口の交通環境が大きな変化を迎える概ね 10 年後の目指すべき街の姿を描き、その実現に向けた取り組みを示す」とした「三鷹駅北口街づくりビジョン」（2017 年 5 月）には、準備会が示した「大切にしたいまちづくりの考え方」が反映されている。しかし、これから 10 年というタイムスパンで考えていくより先に、三鷹駅北口地区を取り巻く環境は日に日に動いていってしまい、現実が先行してしまいそうである。まずは基本的な「考え方」に立ち戻って、この地区を市民の側から、使用者の視点からの街のあり方を見直し、議論し、提案する方針をかかげ、個別のテーマとしては、次のような喫緊の課題に取り組む予定であった。

- 東急ストア裏を含む商業地のあり方
- 駅前広場と玉川上水の関係
- 駅前広場の拡張を伴う再整備

しかし、コロナ禍を受けて、関連する取り組みがほぼストップせざるを得ず、計画していた議論をほぼ行うことができなかった。例えば、「タワーズマルシェ@むさしの」は予定していた 5 回の開催をすべて中止または延期している。

こうした中、市は、三鷹駅北口パブリックスペース利活用社会実験として、10 月 15 日(水)～11 月 30 日(月)までの間、三鷹駅北口の店舗に管理のご協力してもらい、店舗前の歩道上にオープンテラスを設置し、休憩や飲食のためのスペースとして利用してもらった社会実験を実施したが、これにも個別に協力することにとどまった。

また、住友不動産のマンション開発（17-018(仮称)武蔵野市中町計画）については、工事が着工し、着工後の状況についての事業者説明会を、三鷹駅北口地区まちづくり準備会が主催して 2020 年 12 月 17 日（木）18：30～に開催した。この中で、隣接する東急ストアが、当初移転に否定的だったものの開発で用意される店舗への移転が決まり、また市から導入を求められて設置することとした保育所について、ここに来て充足したことから設置不要と市に告げられたことで、何の用途を導入するか検討中であることを把握した。

6. 市民が憩えるプレイス西通りをつくる会への協力

事業内容6： プレイス西通りについて（中島、清本、田中、篠原）

プレイス西通りは、武蔵境駅直近にありながら豊かな緑に恵まれ、武蔵野プレイス、ふれあい広場公園、観音院に囲まれ、安全な路として多くの市民に親しまれている。また、JR nonowa 口は毎日沢山の市民が利用している。ところが、ここには幹線街路の都市計画 3・4、27 号線計画が存在し、これが施工された場合には緑も歩行者の安全も著しく毀損される。この計画の変更のために、長年にわたり市と面談を繰り返してきたが、一昨年に市が示した対策案から都市計画法等に対する市の一部の理解に疑問が生じた。他方、市との面談からは重要な示唆も得られ、有益であった。そこで、昨年は都市計画法をはじめ、全ての関係法令、行政規則、条例等を改めて精査し、その結果として 10 月 6 日に長文の意見書『幹線街路 3・4・27 号の都市計画変更を求める具体的提案』を市へ提出した。区画街路の都市計画への変更を主軸とするものである。その後、12 月 1 日に市長、副市長と面談した。

7. 「武蔵野の森を育てる会」とのコラボレーション事業の実施

事業内容7： クリーンセンターに武蔵野育ちの雑木を植える企画について（村井、田中）

令和元年度、独歩の森（境山野緑地）の実生から育ったコナラとクヌギ（計 10 本）及びエゴノキ（1 本）をどんぶり広場に移植した。このうち、クヌギ 2 本が令和 2 年度に枯れたため、同年度末に独歩の森由来の苗木を再移植した。順調に育つことを見守りたい。

事業内容8： 緑の基本計画のフォローアップ（田中、村井、篠原）

二小ゾーンの樹木更新を成功に導くための保全活動を丁寧に行った。更新は順調に進んでおり、最も成長の早い萌芽は5メートルを超える高さまで育っている。林の若返りの効果として、鳥や昆虫などの生物の多様性が飛躍的に向上している。

若返りの成果報告を兼ねて開催する予定であったシンポジウムは、コロナ禍の深刻化により令和2年度も開催することができなかったものの、吉祥寺村立雑学大学、三鷹雑学大学、ボランティアセンター武蔵野の「おとばサロン」、武蔵野ロータリークラブなど各種の学習会で報告し、草の根的な啓発活動が行われた。これらを通して、武蔵野の雑木林を未来へと継承するための市民ネットワークが少しずつ広がってきた。それとともに、市緑のまち推進課とのコミュニケーションも深め、協働による雑木林保全の方策を継続的に検討してきた。

東京都全域に広がったナラ枯れ（カシノナガキクイムシによる被害）が独歩の森にも及んだため、市緑のまち推進課との状況共有を密に行い、市による枯木の伐採、カシノナガキクイムシの捕獲による被害の軽減策の検討などが行われた。このような事態を踏まえ、独歩の森のコナラとクヌギの遺伝子保護のため、境山野緑地内駐車場跡地の苗床の拡張を進めることとなった。

8. 「くらしフェスタむさしの2020」への参加

事業内容9： くらしフェスタむさしの2020への参加（事務局、報告書は塩澤が担当）

テーマを「武蔵野市の農地の現状と課題」として、塩澤氏が資料を作成した。

新型コロナの影響により「くらしフェスタむさしの2020」は開催中止となり、冊子の作成と市役所ロビーのパネル展示（令和3年2月19日～26日）を行った。

9. 様々な大学や研究機関、NPOとの地域課題に関するコラボレーション

事業内容10： 大学や研究機関、NPOなどとのコラボを実現する（篠原）

大学や研究機関、NPOなど、何らかの機会や要請に応じて連携をはかり、コラボを実現したいと考えたが、残念ながら具体的な機会や要請はなく、当会としてもコロナ禍において具体化する企画は立案しなかった。

10. 長期計画見直しへの協力

事業内容11： 第6期長期計画策定の実施状況を注視する（南、山田、村井、塩澤、篠原他役員及び会員）

財政や都市、緑を中心とした課題について注視してきた。都市計画マスタープランや緑の基本計画等を中心に、第6期長期計画に基づき、緑を中心とした課題を反映させる動きが見られた。

11. まちづくりを楽しむ基礎講座のテーマに基づく事業の実施

事業内容12： 昨年度実施したまちづくりを楽しむ基礎講座の各テーマに基づく事業やイベントの実施（塩澤、篠原、村井、南、高田他）

全体計画：昨年度の実績をもとに、以下のように、市や市民団体の事業や計画に対しても積極的に関与や提言をおこなうことを計画したが、いずれもリアルな空間を対象とした計画であり、コロナ禍ということもあり、残念ながら具体的に企画実現には進めなかった。

個別計画1：イルミネーションとお花による公共空間魅力づくりに向けたイベントの実施（篠原）。

個別計画2：吉祥寺中通り商店街の景観をリノベーションし吉祥寺の新たな憩いの場所とする（山田）。

個別計画3：景観や都市観光に関する市や市民団体の事業や計画に対して積極的に関与し提言する（南）。

12. その他事業

事業内容 13： 旧赤星邸の活用方法に向けた講座等の提供

旧赤星邸（現ナミュール・ノートルダム修道女会）は建物の寄贈を受け市の管理となった。保存活動を行った「啓明会」を中心に市民サイドで活用方法を検討の動きがある。啓明会の活動に当会会員の個人的な参加はあったが、会として講座の提供等は行わなかった。

事業内容 14： 第四次住宅マスタープラン策定委員会に参加

当会からは内門が市民委員、篠原がニッセイ基礎研究所から副委員長として参加し、令和元年 8 月から令和 3 年 3 月まで、コロナ禍の影響も受けたが、計 6 回の策定委員会に参加し、パブリックコメントなどを経て、令和 3 年 4 月 1 日からの実施にこぎ着けた。武蔵野市らしいマンションの維持管理も含めた他、初めて計画の実施状況をモニターするための成果指標を設けるなど、コンパクトながら、従来とは一線を画したプランを策定できたと思う。

パブリックコメントの結果も総じて好意的であり、市民からも一定の評価をいただいたものとする。

§ 2. まちづくりに関する支援・連携事業

事業内容 15： コミュニティ・まちづくり支援活動の実施（役員、会員）

コミュニティ協議会等との連携の深化を行い、協力要請には zoom を含め、適時対応する準備はしていたが、特に具体的な要請はなかった。

事業内容 16： まちづくり出前講座の実施（役員、会員）

地域団体やコミセン等の要請に応じて、zoom 利用を含めて、講師を派遣する準備はしていたが、特に具体的な要請はなかった。

§ 3. まちづくりに関する普及啓発事業及びネットワークづくり

事業内容 17： 講習会、シンポジウム、まちづくり探訪等の開催（役員、会員）

ニーズに基づき、公園緑地や景観、古民家等のウォッチング、講習会、シンポジウム、まちづくり探訪などを企画あるいは連携して実施する用意はあったが、特に具体的な要請はなかった。

事業内容 18： 武蔵野市長、市議、まちづくり担当部門、市内外まちづくり団体とのネットワークづくり（役員、会員）

各事業を通じて、市長や副市長、市議、まちづくりやみどりの担当部門などとのネットワークづくりを行うことについては、「プレイス西通りの会」の活動や「武蔵野の森を育てる会」、「住宅マスタープランの改定委員会」などを通じて、市長、副市長、関係部長・課長、担当者との面談を行うことができた他、前述の各事業を通じて、ある程度は実現できたと思う。

市内外まちづくり団体とのネットワークづくりを行うことについては、コロナ禍ということもあり、従来以上のことは、あまり実現できなかった。

§ 4. 事務局業務及びホームページの維持管理・更新等

事業内容19： 定例会の開催と運営（役員）

次の通り定例会を開催した。

- ✓ 7月10日（金）、消費生活センター講座室
- ✓ 9月11日（金）、同上
- ✓ 11月13日（金）、同上
- ✓ 2021年1月15日（金）、同上、終了後新年会実施（Zoomにて実施）
- ✓ 2021年3月12日（金）、同上（Zoomにて実施）

事業内容20： 役員会の開催と運営（役員）

役員会はコロナ禍でもあり、Eメールやzoomにより実施した（3月11日の定例会の後）。

事業内容21： 各種届け出業務や会計業務、資料等印刷準備（役員）

役員の異動や事業報告等のため、東京都などへの届け出を行った他、武蔵野市関連で市民税免除手続きや消費者団体登録、教育関連団体登録などを行った。

事業内容22： ホームページの維持管理・一層の拡充等（山田、篠原）

以下のような計画を立てたが、情報発信の程度は横ばいであり、引き続き、課題である。ただ、定例会の実施においては、1月14日に試行を行い、3月11日にもzoomを通じて実施することができた。課題としては、zoomの利用が難しい方もいること。

- ✓ 従来からの外部委託を中心とした維持管理に加え、役員による投稿を奨励し、新型コロナウイルス感染症問題の最中に置かれたまちづくり・地域・コミュニティ情報の発信に努める。記事の投稿件数の拡大やホームページ全体の更新については、この過程において、継続的な課題として検討を続ける。
- ✓ 集会やイベント等の開催が難しい状態にあることから、ウェブやメーリングリストによる情報共有機会の拡大ため、より多くの発信を行うようにしたい。投稿件数の増加に対応できるように、予算を拡充し、外部委託によるホームページの更新頻度を増やす。

以上

別紙1-2 令和2年度収支計算書

令和元年度収支計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位:円)

	収入	支出
会費・入会金		
入会金	0	
会費	56,000	
事業		
(1)まちづくり事業		
外環の地上部街路話し合い	98,000	
住宅マスタープラン市民委員謝礼等	38,000	
(2)教育事業		
講師派遣	0	
(3)普及啓発事業		
ウェブサイト維持管理		60,440
その他収入		
寄付	0	
利息	9	
事務管理費		
消耗品		220
通信費		1,376
租税公課		
印紙代		1,800
合計	192,009	63,836

収支差額	128,173
期首繰入(前期残高)	985,084
期末繰越(当期末残高)	1,113,257

別紙1-3 令和2年度監査報告書

令和2年度の業務監査及び会計監査の結果、「特定非営利活動法人市民まちづくり会議・むさしの」の業務は、法令および定款に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて適正に処理されていることを確認しました。

令和3年5月10日

特定非営利活動法人市民まちづくり会議・むさしの

監事 竹山 悠紀子



監事 青木 一郎



別紙2-1 令和3年度事業計画

昨年度以上に、今年度は、新型コロナウイルス感染症が広がりつつある。ワクチンの早期接種により、どれだけ従来のような市民生活や活動が復活できるかは未知数であるが、当会としても、zoom の活用を始めており、感染症の収束までは、状況を見つつ、まちづくりや市民活動が絶えることがないように、地道な活動を継続していきたい。

昨年度掲げた次の目標を、今年度も継承し、以下の通り、令和3年度事業計画を提案する。

- ①NPO 法人のステータスを活かし、パートナーとして個々のまちづくり・コミュニティ活動を支援すること。
- ②対面による議論の機会が縮小する中で、パブリックコメントなど、市民によるまちづくり活動に関する市への組織的な提案を行うこと。
- ③まちづくり・コミュニティ活動に関する情報の共有、発信の場となること。
- ④まちづくり・コミュニティ活動を記録する場となること。
- ⑤その他、様々なニーズに鋭意対応すること。

§ 1. まちづくりに関する調査研究事業

1. 景観をテーマにしたまちづくり事業

事業内容1： 武蔵野市景観ガイドラインの検証及び市民向け手引き等のフォローアップ、及び景観に関する市民意識を高めるための啓蒙活動（南）

市内全体の景観向上に向けて、昨年度に引き続き現状の課題把握や啓発事業等を継続的に実施する。

2. 古民家ウォッチングの継続と利活用方策の検討

事業内容2： 古民家から KOMINKA へ（山田）

武蔵野市に限らず他地域も含めて、新型コロナウイルス感染症の状況改善を前提に実施を企画する。

3. 都市計画マスタープランの見直しに向けた対応

事業内容3： 武蔵野市都市計画マスタープランの見直しへの対応（役員、篠原）

引き続き、改定委員会の動向をウォッチし、必要に応じて意見書等を提出する。

4. 「外環の地上部街路に関する話し合いの会」への司会者の派遣等

事業内容4： 中間まとめの会に進行役を派遣し編集作業をサポートする（村井、西村）

中間まとめの編集会議は、一年以上開かれていないが、編集会議メンバーの自主的な校正作業は進められており、その成果は都の担当に送られている。今年度、新型コロナウイルス感染症の鎮静化が見通せれば、早急なフルバージョン報告書の完成を目指したい。その後、概要版や周辺住民の意見聴取等について検討が必要である。

昨年度は、本編をまとめるまで、あと3回程度の作業部会、秋に編集会議（全体会）を開き、年度後半に概要版の編集や、意見聴取等の検討となることを想定していたが、東京都の運営方針等は明らかになっていない。当面は、村井が進行役を継続する方向で準備する。

外環本線に関して、調布の陥没事故は大深度法の根幹に関わる大きな問題であることから、関係機関、市議会の動きを注視し、地元で学習会をするときには、当会ホームページ等で情報発信を行う。

5. 三鷹駅北口地区まちづくり協議会・準備会への支援

事業内容5： 「三鷹駅北口街づくりビジョン」について（高田、塩澤）

昨年度検討できなかったことから、今年度は昨年度計画した次の点について、コロナ禍の状況を見ながら、三鷹駅北口地区まちづくり協議会・準備会等の中で、検討を行う。

「三鷹駅北口地区補助幹線道路の整備により、三鷹駅北口の交通環境が大きな変化を迎える概ね 10 年後の目指すべき街の姿を描き、その実現に向けた取り組みを示す」とした「三鷹駅北口街づくりビジョン」（2017 年 5 月）には、準備会が示した「大切にしたいまちづくりの考え方」が反映されている。しかし、これから 10 年というタイムスパンで考えていくより先に、三鷹駅北口地区を取り巻く環境は日に日に動いていってしまい、現実が先行してしまっている。まずは基本的な「考え方」に立ち戻って、この地区を市民の側から、使用者の視点からの街のあり方を見直し、議論し、提案していく。

都市マスや街づくりビジョンなどで示されている行政の考えているこの地区の将来像がクリアに見えてこないという問題がベースにあるかもしれないが、少なくとも現在この地区で見切り発車的に進められている計画は、その方向性とは相容れないように感じている。今後、補助幹線を活用した交通計画や北口駅前広場の計画など、この街にとって重大な場面となる段階となってくる。このような街の方向性を決定する際には、さらに密度の高い意見の交換が必要であろうと考える。

西久保一丁目緑を守る地区まちづくり協定、タワーズマルシェなど、これまで実現してきた活動実績を積み重ねていくことはもちろん、私たちを取り巻く環境について日常的な視点から積極的に発言し、行動していく。

6. 市民が憩えるプレイス西通りをつくる会への協力

事業内容6： プレイス西通りについて（中島、清本、田中、篠原）

市は、都市計画変更を視野にいれた初めての予算を本年より編成した。また、予定地の歩道上にあるトイレの移動についても初めての予算を計上した。いずれも設計のための予算であるが、その意義は大きい。前記した『幹線街路3・4・27号の都市計画変更を求める具体的提案』も都市計画変更だけでなく、バリアフリー、トイレの移転から街路樹の保全、車道の構成まで、14項目の具体提案を行っている。今年も引き続き市との意見交換を進めていきたい。

7. 「武蔵野の森を育てる会」とのコラボレーション事業の実施

事業内容7： クリーンセンターに武蔵野育ちの雑木を植える企画について（村井、田中）

むさしのエコreゾーンは令和2年11月オープンした。どんぐり広場に移植した雑木（コナラ、クヌギ、エゴノキ）の育成管理を今後「武蔵野の森を育てる会」と市の協働による体験型環境啓発活動として行っていけるよう当会としても協力していく。

事業内容8： 緑の基本計画のフォローアップ（田中、村井、篠原）

二小ゾーンの若返りを成功に導くための保全活動を引き続き丁寧に行うとともに、コロナ禍における新しい情報発信の形態を試行・開発するとともに、それを通して武蔵野の雑木林を未来へと継承するための市民ネットワークを広げる。それとともに、市とのコミュニケーションを深め、協働による雑木林保全の方策を検討する。ナラ枯れによる独歩の森の消滅の危機に対抗するため、市との協働によってカシノナガキクイムシからの防御とコナラ・クヌギの遺伝子の保護・継承策を実行する（苗床については、5月に整備が完了した）。

8. 「くらしフェスタむさしの2021」への参加

事業内容9： くらしフェスタむさしの2021への参加（村井、報告書は田中が担当）

今年度のテーマは、「境山野緑地の萌芽更新のその後（仮）」とする予定。

9. 様々な大学や研究機関、NPO との地域課題に関するコラボレーション

事業内容 10： 大学や研究機関、NPO などとのコラボを実現する（篠原）

大学や研究機関、NPO など、何らかの機会や要請に応じて、連携をはかり、共同事業を含めたコラボを実現する。

10. 長期計画見直しへの協力

事業内容 11： 第6期長期計画策定の実施状況を注視する（南、山田、村井、塩澤、篠原他役員及び会員）

第6期長期計画の実施状況、特に財政、都市、緑を中心とした課題について注視し、状況に応じて、市や関係者に対する要望や提案を行う。

§ 2. まちづくりに関する支援・連携事業

事業内容 12： コミュニティ・まちづくり支援活動の実施（役員、会員）

コミュニティ協議会等との連携の深化を行い、協力要請には適時対応する。

コミセン中心の地域コミュニティは、地域間の格差が大きいまま、第一世代が高齢化して世代交代が進まないなど停滞気味のところが多いようである。

年々増加するマンションのコミュニティは全く動かないし、各地域で動いているマルシェや文化活動等のテーマコミュニティについては、全市に実施状況が伝わっているわけではなく、支援体制が乏しいのが実情と判断される。こうした状況に鑑み、武蔵野市コミュニティ構想の勉強会の実施を検討する（南）。

事業内容 13： まちづくり出前講座の実施（役員、会員）

地域団体やコミセン等の要請に応じて講師を派遣する。

§ 3. まちづくりに関する普及啓発事業及びネットワークづくり

事業内容 14： 講習会、シンポジウム、まちづくり探訪等の開催（役員、会員）

ニーズに基づき、公園緑地や景観、古民家等のウォッチング、講習会、シンポジウム、まちづくり探訪などを企画あるいは連携して実施する（役員、会員）。

事業内容 15： 武蔵野市長、市議、まちづくり担当部門、市内外まちづくり団体とのネットワークづくり（役員、会員）

各事業を通じて、市長や副市長、市議、まちづくりやみどりの担当部門などとのネットワークづくりを行う。市内外まちづくり団体とのネットワークづくりを行う。

§ 4. 事務局業務及びホームページの維持管理・更新等

事業内容 16： 定例会の開催と運営（役員）

次の通り定例会を開催する。

- ✓ 7月9日（金）、消費生活センター講座室 又は zoom 開催

- ✓ 9月10日(金)、同上
- ✓ 11月12日(金)、同上
- ✓ 2022年1月14日(金)、同上、終了後新年会実施(zoom開催も想定)
- ✓ 2022年3月11日(金)、消費生活センター講座室又はzoom開催

事業内容17： 役員会の開催と運営(役員)

必要に応じて役員会を招集する(メールやzoomを活用する)。

事業内容18： 各種届け出業務や会計業務、資料等印刷準備(役員)

東京都への報告や定例会・役員会等の資料作成準備業務、予決算・出納会計業務などを行う。

事業内容19： ホームページの維持管理・一層の拡充等(山田、篠原)

従来からの外部委託を中心とした維持管理に加え、役員による投稿を奨励し、新型コロナウイルス感染症問題の最中に置かれたまちづくり・地域・コミュニティ情報の発信に努める。記事の投稿件数の拡大やホームページ全体の更新については、この過程において、継続的な課題として検討を続ける。

集会やイベント等の開催が難しい状態にあることから、ウェブやメーリングリストによる情報共有機会の拡大務め、より多くの発信を行うようにしたい。投稿件数の増加に対応できるように、予算を拡充し、外部委託によるホームページの更新頻度を増やす。

以上

別紙2-2 令和3年度予算

令和3年度収入見込み:

昨年度繰越額	1,113,257 円	
会費収入見込み	58,000 円	会員数 29 人
活動による収入見込み	50,000 円	外環その 2(確定分)
収入合計	1,221,257 円	

令和3年度支出見込み:

事業内容	金額	備考
1. まちづくりに関する調査研究事業		
景観をテーマにしたまちづくり事業、古民家ウォッチング、都市計画マスタープランの見直しに向けた対応、外環の地上部話し合いの会への司会者の派遣等、三鷹駅北口地区まちづくり協議会・準備会への支援、市民が憩えるプレイス西通りをつくる会への協力、くらしフェスタむさしのへの参加、その他事業	10,000 円	資料・茶代等活動費
武蔵野の森を育てる会とのコラボレーション事業	25,000 円	講師謝礼等
予備費	5,000 円	予備費
小計:	40,000 円	
2. まちづくりに関する支援・連携事業		
コミュニティ・まちづくり支援活動の実施、まちづくり出前講座の実施	なし	
小計:	なし	
3. 普及啓発事業及びネットワークづくり		
講習会、シンポジウム等の開催、まちづくり探訪、ネットワークづくり等	10,000 円	企画準備費、茶代・資料作成費
小計:	10,000 円	
4. 事務局業務及びホームページの維持管理・更新等		
定例会・役員会の開催と運営 各種届け出業務や会計業務、資料等印刷準備	10,000 円	資料作成コピー代等
ウェブサイトの維持管理・拡充等	120,000 円	実績ベース
小計:	130,000 円	
合計:	180,000 円	

収支差額（次期繰越額）: 1,041,257 円

参考：令和2年度会員名簿(令和3年3月31日時点)

1	代 表		篠原 二三夫	理事長、事務局長兼
2	副代表		南 賢二	理事、事務局兼
3	〃		河田 弘昭	事務局兼
4	〃		高田 典夫	理事、事務局兼
5	〃		村井 寿夫	理事、事務局兼
6	〃		山田 朗	理事、事務局兼
7	監 事		竹山 悠紀子	監事
8	〃		青木 一郎	監事
9	顧 問		清本 和子	
10	〃		勝倉 啓仁	
11	会 員		塩澤 誠一郎	
12	〃		内門 秋弘	
13	〃		西村 まり	
14	〃		高田 昭彦	
15	〃		田辺 軌夫	
16	〃		深田 貴美子	
17	〃		川名 雄二	
18	〃		内山 智子	
19	〃		中島 敏	
20	〃		手塚 一郎	
21	〃		菊池 太郎	
22	〃		中村 郁博	
23	〃		山本 ひとみ	
24	〃		三浦 香澄	
25	〃		原 利子	
26	〃		田中 雅文	
27	〃		長谷川 正人	
28	〃		梅川 誠	
29	〃		中村 晃博	

